

たなかみ山

第 6 号 行
第 6 号 行
桐生民具
ク ラ ブ

治山治水 千年のつけ 出水毎に橋の流失(中の一)

山本文良

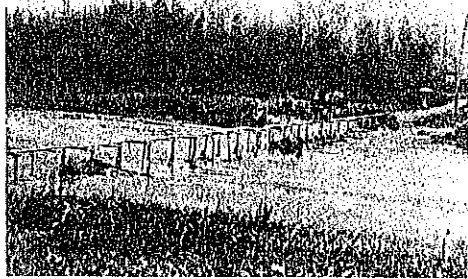
昔から地元で伝わる天気予報の一つに「川(大戸川)の瀬音が聞こえ」と雨が降る」と言われています。

今日のように科学が進んでいない時代でも、先人の知恵はすばらしく確実に当たっています。

お天気の変化は、日常生活は勿論農作業にとっても極めて影響が大であります。

上田上学区は、面積が広大だけでなく各町には大きな特徴があります。橋のこと一つ挙げても、領けます。

大鳥居町は、同じ大戸川流域でも早



堂村の一本橋 (提供 南部政一氏)

くから堅固な木造の土橋が架かっています。荒戸橋は二番手の木造。別所・綾井・堂の各橋は三番手で一本橋の時代が長く続いたのです。

大戸川に注ぐ新免町の吉祥寺川には、大鳥居町と同様。早くから幅一間半ぐらゐの土橋が架けられていたのです。

中野町は、古くから菅尾川の集落よりの提防に竹藪をつくったり、防水石柱も設けていたのですが川の改修(昭63)により姿を消しました。

しかし、柴原町では、今も名残りの防水石柱が何組か見られます。

これは、道が川になったり、川が道であった証しです。

勿論、降雨時を除いては、水のな天井川だったこともあつてか桐生町には、昭和二十一年まで一本橋すらなく、川が道だったり草や萩の干場だったのです。

今日は、大戸川に架かってあつた一本橋について牧町の山本一さん、正田新右衛門さん、古市トシ子さん

等にお伺いした一端を記します。一本橋それは生活道路であり、野道だったのです。

荷物は、すべて背負うか天秤棒で前後に吊り下げて渡ったのです。

時には、大八車を車輪・車台・梯子(長台)の三つに分解して渡っておられるのも見かけたこととです。

こうした大切な一本橋ですから、出水時に流したら、忽ち生活も仕事もストップになります。関係者にとつては「生命の綱」だったのです。

学区の周囲は、すべて禿山です。集中豪雨ともなれば、忽ち増水・濁流となり交通は遮断されます。

犬は、一本橋でも上手に渡ります。が、牛は、どうしたことか怖がって渡りません。そこで、橋の川下へ入られて橋の上から手綱で操って川越えをさせます。

急に空模様が悪くなつてくると、農作業を止めて牛を我が家へ連れて帰らなくてはなりません。

牧町では、不幸にして間に合わない時には、野小屋に何日でも水の引くまで待たせます。

そのため、農繁期になると糠・豆粕・干草など牛の飼料を半月分準備し、かまども作って煮炊きできるように対応したのです。今もその跡が残っています。

時には、どこかの橋が残り渡れることがわかると、「湯出道」であるうと「山道」であるうと遠廻りして帰られたそうです。

一本橋は、度重なる流失から守るため、失敗に失敗を重ね漸く成功の域に達せられたのです。

板は、丈夫で軽く乾燥しやすい厚手の杉材を用い、そこには鑿で町名を彫ったり、板と板とを綱で繋ぐことを考えたのです。

さらに、板は橋の中程で二つに分れるようにしてあり、両端は固く流れないように結びつけたのです。

少し危ないのですが、板は橋桁の横木(鳥居)に括りついたので括ってありません。

これは、増水時板が自然に浮かんで橋の中央から左右に二つに分れ、岸辺に流される仕掛けです。

こうすると、危険を犯して板をあげに行く必要がなくなり、板も流出することはありません。

しかし、自然の猛威は、なかなか理屈通りにはさせてくれません。時には、下流の黒津町まで橋板を拾いに行ったこととです。

雨が止み危険水位より下がると、すぐ一本橋の点検・補修が始まります。まず、橋桁の有無・破損程度の調

査。補修のための計画。用材の伐採・運搬。さらに杭打ち。鳥居の完成。板乗せが続きます。

被害の比較的少ない時でも、兩岸に数珠つなぎになって流れついている橋板の取り出し。橋桁の矯正。板乗せはやらなくてはなりません。

鎌や鋸を使ってやつと板が動くようになると、綱をつけ沢山の人が引っぱります。

ある時は、用材運搬中牛車が山腹から落ち、財産とも言うべき牛が尊い犠牲となったこともありま

す。全くの重労働であり、油断は絶対できません。

特に戦時中は、青壮年男子は殆ど戦場や工場に駆り出されているため、女性が男勝りとなってこの仕事をしなければならなかったのです。

これらは、重労働や危険だけではすまなかったのです。

やれやれ橋の修理が終ったと喜んだのも束の間。再び水害が起こり橋は忽ち流失。まだ支払いも十分済んでいないのにと、男泣きに泣かれた区長さんもあったとのこと

です。また、田上中学校の新校舎が新免

町に竣工されたのが昭和二十六年。

それ以来。大部分の生徒は大戸川を渡って登校するので、台風等の水害には随分悩まされています。風水害は毎年のように襲ってきま

す。特に昭和二十八年の十三号台風の被害は大きく、最強の荒戸橋も大破損通行不能となり、新免・堂の一部生徒のみが田上中学へ。他の生徒は、休校一日・上田上小学校で間借りの

矢野の 箭筈神社の歴史 おまつり(中)

一年を通じて神様に祈願・感謝・報恩のまことを現わすために、いろいろなお祭りをします。

また、それぞれのお祭りには特徴があります。

神 事

☆旧 記

正月十三日 御祭り七鍋の神事

五月十三日 御田 さびらき

六月 晦日 火鎮祭

九月十三日 新嘗祭

十一月十三日 御火焼

☆現 行

一月 一日 元旦祭

一月十五日 厄除祈願

二月二十七日 祈年祭

五月 五日 例 祭

分散授業三日間。当分は、大変な危険をおかし、やつとの思いで架橋あるいは補修して下さった堂の一本橋や牧の綾井橋を渡って新免の湯出道を通学されたのです。

水害は橋ばかりではなく、すぐ上流の牧・大鳥居の発電所でも大変なご苦労があったのです。

関西配電の調査によると、年間十萬立方メートルの土砂が田上山から流出しているそうです。

氏子総代 谷 口 定 雄

六月 〇日 御田植祭

六月三十日 夏越しの大抜

九月 一日 八朔祭

十一月二十七日 新嘗祭

十二月三十一日 暮れの大抜

〇七鍋の神事

現在は一月一日・十五日に初詣で。厄除祈願を行ないますが、明治維新までは、御祭りは大抵十三日だったようです。

この日は、特に神拝の氏子に朝から夕方まで、雑煮を鍋で何回も炊いて接待されました。これを「七鍋の神事」と言います。

〇例 祭

五月一日と定められていました。が、昭和二十年太平洋戦争終結

台風その他多量の雨が降ると、忽ち前述のように濁流・増水はおろか、土砂流出・流木・水の調節等との戦いが日夜をわかつた水取入口で始まります。

近年は、植樹の種類の変化や上流での開発が進んだため山や木の保水力が弱まり、天候の変化には絶えず気を配り敏感に対応しなくてはならないとのことです。

昭和二十六年講和条約締結を記念して「太鼓神輿」が奉納されました。その年から五月五日に変更されました。

その後「樽神輿」「子ども神輿」の奉納もあって、子どもを中心とした祭り行事。即ち「神輿巡行」が行なわれるようになりました。

また、行事毎に少女の祭祀舞が奉納され、次代を受け継ぐ少年少女の敬神崇祖の教化活動にもなっています。

〇御田植祭

昔から田植えが終わると御田植祭が行なわれます。

ただし、その期日は年によって田植えの終る日が違うので、一定していません。

この祭には、当社独得の「榎」と言って大豆と洗米を混ぜ合わせ

たものが、氏子二戸（順次）より奉納されます。
 また、湯立の式には「トビウオ」「スルメ」が神撰として供えられ、することも習わしとなっています。
 これは、何れも「五穀豊穡」と「豊漁」つまり、人々の食べものがたくさんとれることを祈願されたものと思われまます。

明治以降九月一日に改められ、八朔祭
 「五穀豊穡」と「牛馬の息災」を神に願ひ、また祈つてきました。
 この祭には、「筒粥」が供えられます。
 これは、その年の吉凶を占った名残りだと伝えられています。

米の価格と時の動き

ふるさと資料館

山本三郎 山本善彦(善七)

年代 価格(一俵当り)と(六〇キロ)でざい)

明治1年 1円69銭

2年 3円13銭 農民一揆

3年 1円87銭

4年 1円12銭

5年 80銭

6年 1円20銭 農民一揆

7年 1円87銭

8年 2円5銭

9年 1円18銭 農民大一揆

10年 1円34銭

11年 1円92銭

12年 2円64銭

13年 4円80銭

14年 3円28銭

15年 2円8銭

16年 1円25銭

17年 1円84銭

18年 1円73銭

19年 1円55銭

20年 1円48銭

21年 1円42銭

22年 2円

23年 2円

24年 2円64銭

25年 2円28銭

26年 2円66銭

27年 2円66銭

28年 4円

29年 5円72銭

30年 4円16銭

31年 3円28銭

32年 4円

33年 3円76銭

34年 3円76銭

35年 4円96銭

36年 4円36銭

37年 4円36銭

38年 5円28銭

39年 5円28銭

40年 4円72銭

41年 4円92銭

42年 4円

43年 5円36銭

44年 6円16銭

明治1年 8円32銭

2年 8円32銭

3年 7円28銭

4年 4円32銭

5年 5円12銭

6年 6円

7年 8円48銭

8年 14円60銭

9年 20円

10年 14円20銭

11年 10円20銭

12年 12円40銭

13年 15円30銭

米価暴騰
 米騒動
 戦後恐慌
 米不足・輸入
 関東大震災
 金融政策
 緊縮政策
 満洲事変
 第一次世界大戦
 第一世界大戦
 米不足・輸入
 蘆溝橋事件
 価格停止令
 米増産体制
 対米英蘭宣戦
 幣貨切り下げ
 終戦
 米の品質改良
 史上最高の収量

21年 2百20円

22年 7百円

23年 1千4百87円

24年 1千7百35円

25年 2千64円

26年 2千8百12円

27年 3千円

28年 3千2百80円

29年 3千6百48円

30年 3千9百2円

31年 3千9百95円

32年 3千8百50円

33年 3千9百60円

34年 3千9百66円

35年 4千1百17円

36年 4千2百89円

37年 4千8百82円

38年 5千30円

老人ホームと ふれあい村をお訪ねして

栗東町十里会館 寺田 あや

今日の手作りの風鈴が、あちこちで「リンリン」となる日も遠からず……と思いをよせつつお別れして、生きがいの里に足を向けました。係りの方が帰られたところで、すぐ連絡して頂き、待っている間に深い緑にふれ、よい空気を胸一杯吸って、椎茸栽培や野外展示物等を見て廻りました。

追 伸

近頃、ふれあいまつり・ふれあいひろば・ふれあい学習会等、人の出会いを大切にする「ふれあい」という言葉をよく口にします。先日ふれあい村を訪ねたことから、次のような事をキャッチフレーズに進んでおりますので、ちよつとご紹介します。ふ——ふだんから。れ——れんらくしおうて。あ——相手の気持を思いやり。い——いつも仲よく暮らしましょう。終りになりましたが、「桐生園」「ふれあい村」そして機関誌「たなかみ山」のますますのご発展をお祈り申し上げます。

おれとお詫び

ご投稿・取材ご協力有難度うございまして。心からお礼申し上げます。「金勝寺裏参道(空)」は、紙面の都合により次号へ掲載します。桐生民具クラブ代表 山本文良

公④〇〇七七 有線五六七八

39年	5千6百10円	
40年	6千2百28円	地力の増強
41年	6千7百48円	裏作取止め 大麦小麦 グリシビス
42年	7千7百52円	
43年	8千3百60円	
44年	8千4百50円	
45年	8千5百32円	俵が紙袋に
46年	8千9百62円	パン食増加
47年	8千9百62円	
48年	1万2百58円	
49年	1万3千6百62円	
50年	1万5千6百16円	
51年	1万6千6百14円	
52年	1万7千2百76円	
53年	1万7千4百3円	
54年	1万7千5百76円	
55年	1万7千9百46円	
56年	1万8千18円	減反政策
57年	1万8千3百20円	集団転作
58年	1万8千5百28円	
59年	1万8千7百12円	
60年	1万8千9百14円	
61年	1万8千9百12円	
62年	1万8千6百15円	
63年	1万7千1百72円	
平成1年	1万7千1百72円	

主食のカロリー換算比率

○精米……	54.8%	○粉……	10.0%
○甘藷……	5.3%	○メン・餅……	11.2%
○パン……	11.8%	○麦・雑穀……	6.9%

○この世にお年寄りの楽園をつくりましょう。
○ねたきりのお年寄りをもつ家庭の苦しみを除きましょう。
○一般の方々の老後の不安をなくしましょう。
の方針が、手にとるように伺えました。利用者の方々も何とお幸せで、心豊かに過ごしておられるんだなと思いつつおいとましました。
次に自然堂工房さんに寄せて頂き、障害にもめげず頑張っておられる姿に感動し、かわいい動物の磁石をおみやげに買いました。

○お年寄りを大切にしましょう。
○お年寄りに生きがいを与えましょう。
○この世にお年寄りの楽園をつくりましょう。
○ねたきりのお年寄りをもつ家庭の苦しみを除きましょう。
○一般の方々の老後の不安をなくしましょう。
の方針が、手にとるように伺えました。利用者の方々も何とお幸せで、心豊かに過ごしておられるんだなと思いつつおいとましました。
次に自然堂工房さんに寄せて頂き、障害にもめげず頑張っておられる姿に感動し、かわいい動物の磁石をおみやげに買いました。

○お年寄りを大切にしましょう。
○お年寄りに生きがいを与えましょう。
○この世にお年寄りの楽園をつくりましょう。
○ねたきりのお年寄りをもつ家庭の苦しみを除きましょう。
○一般の方々の老後の不安をなくしましょう。
の方針が、手にとるように伺えました。利用者の方々も何とお幸せで、心豊かに過ごしておられるんだなと思いつつおいとましました。
次に自然堂工房さんに寄せて頂き、障害にもめげず頑張っておられる姿に感動し、かわいい動物の磁石をおみやげに買いました。